

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	株式会社ヤマナカ
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中村区岩塚町字西枝1番地の1
工場等の名称	ヤマナカ新中島店
工場等の所在地	名古屋市中川区中島新町2丁目20
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	スーパーマーケット、衣料販売、リサイクル店、飲食店
計画期間	令和2年4月1日 ~ 令和5年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和4年7月7日 ~ 令和4年10月5日		
公表方法		掲示 閲覧	(場所)
	○	ホーム ページ	(HPアドレス) <a href="https://www.super-yamanaka.co.jp/">https://www.super-yamanaka.co.jp/</a>
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-413-7232		

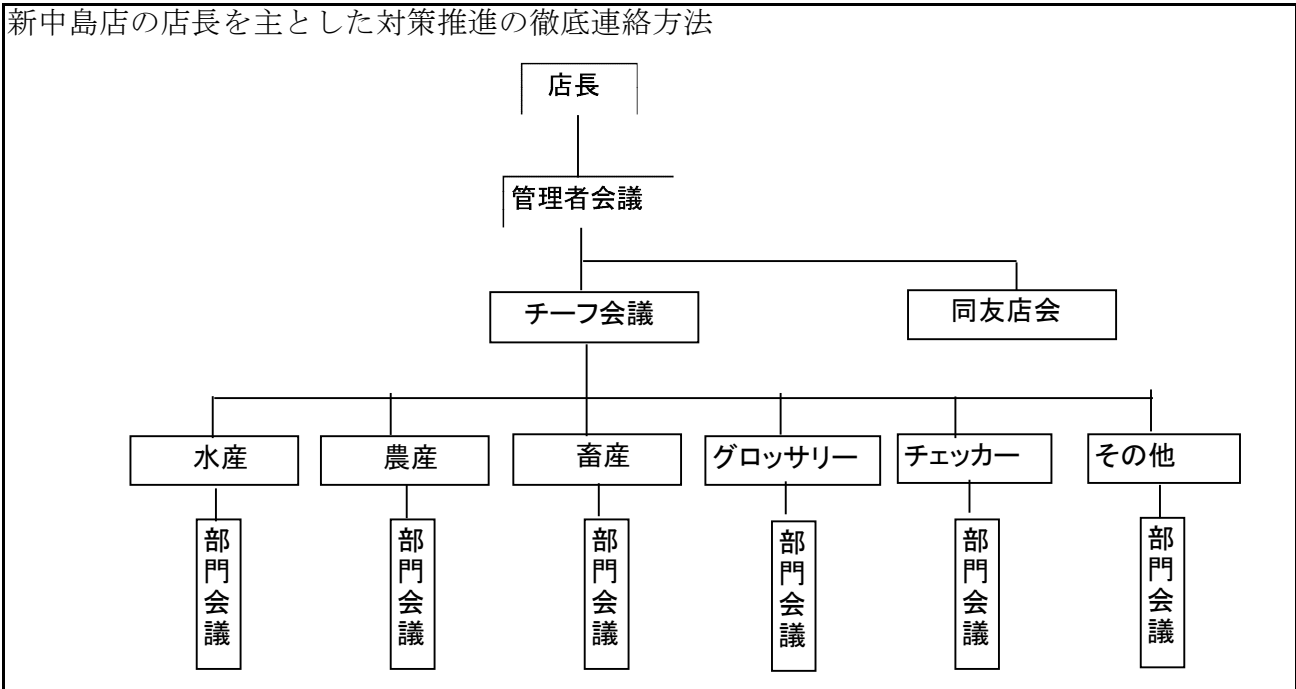
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

『企業行動憲章』  
地球環境への配慮  
当社は企業方針に基づき地球温暖化防止、資源有効利用などの環境問題に真摯に取り組み、地域社会との調和に努め、環境保全と地域社会発展が両立する継続的な活動をおこなう。

1. 継続的な環境改善  
PDCAサイクルに基づく環境施策の継続的な改善を進める。
2. 省資源・省エネルギー活動の推進  
店舗で使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を目標を立てて削減する。
3. 廃棄物の発生抑制、再資源化の推進  
廃棄物の発生抑制に努めるとともに、分別の徹底により再資源化を推進する。
4. 従業員への環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進  
従業員に対しては環境教育を進め、社外に対しては環境情報の公開を行っていく。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目 (令和 3 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,364	t-CO <sub>2</sub>
①を除外した温室効果ガス換算量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		1,364

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 1 年度		令和 4 年度		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度			
温室効果ガス総排出量	1,563	t-CO <sub>2</sub>	1,532	t-CO <sub>2</sub>	1,362	t-CO <sub>2</sub>	1,364	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率 (対 基準年度)			2.0	%	12.9	%	12.7	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 1 年度		令和 4 年度		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率 (対 基準年度)				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

昨年の冷凍機器変更の効果および夏季・冬季省エネ活動を実施している。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房28℃、暖房20℃を徹底。</li> <li>・施設内に温度計を設置し実温管理を徹底して過剰冷暖房を防止する。</li> <li>・年4回以上空調機フィルター定期清掃。</li> <li>・不在時の室内空調はオフ徹底。</li> </ul>		夏・冬期に省エネ活動を実施し、取り組み内容を管理している。
冷ケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハムやフィルターの計画的清掃。</li> <li>・閉店後は平ケースを空にして電源切。</li> <li>・営業時間外はナイトカバーで冷気漏れ防止。</li> <li>・冷食・アイス・ドリンク・ビールの棚下照明は夏場終日OFF。</li> </ul>		店舗で計画的に実施されている。
照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井照明に続き、冷ケースの棚下照明を順次LEDに切り替えていく。</li> <li>・開店前作業は天井照明を50%カット。</li> <li>・作業場、事務所、食堂、トイレ等、使用しないときはまめに照明を切る。</li> </ul>	平成30年までにLED照明に切り替える。	天井照明のLED化は完了。照明管理は店舗でルーティン化している。
OA機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン、コピー機等は離席時には省エネモードにし、退社時は電源を落とす。</li> </ul>		ルーティン化されている。
出店者協調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同友店会でエネルギー使用量の情報を公開し、ショッピングセンター全体で省エネ対策を協議し実行する。</li> <li>・デマンド監視を行い館全体のデマンドピークカットに取り組む。</li> </ul>		定期的に協議を開催し、省エネ対策に努めている。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 3 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 3 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

食品リサイクルの向上について、昨年度より大きく改善した。 グリーン購入について、積極的に取り扱いを実施。
---

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月、各事業所の使用電力量及び前年対比などを発信し、環境への意識を向上させている。
---